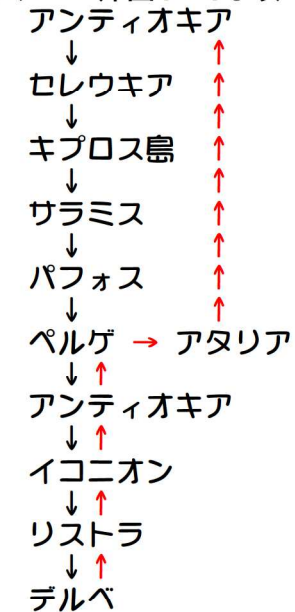


✠パウロの伝道(宣教)旅行Ⅰ AD46~48(47~49)

使徒13~14章 パルナバとサウロ(パウロ)の小アジアへの伝道(宣教)ー助手:マルコと呼ばれたヨハネ(ペルゲでエルサレムに帰国してしまう)



アンティオキア(シリア州の首都、異邦人宣教のための初代教会の中心地)→セレウキア(ローマの自由都市)→キプロス島<サラミス(キプロス島へのユダヤ人移住はBC2世紀半ばには始まっており、サラミスへは多くのユダヤ人が移住していた)→パフォス(キプロスにあるローマ領の首都:BC22)→ペルゲ(小アジア地域のパンフィリア州の首都で、ギリシア風の神殿がある都市だったが、ローマ人はペルゲを占領後、都市を改造し、巨大な列柱が建つ大通り、競技場、12,000人収容の劇場を建設した。)→アンティオキア(小アジア地域のピシディア州にあり、多くのユダヤ人が住む。アレクサンドロス大王の死後、シリアの王となったアンティオコスにちなんで名づけられた。※シリアのアンティオキアとは異なる。)→イコニオン(現在のコンヤ、ガラテヤ地方の重要な商業都市で、シリアからエフェソやローマへの街道は、イコニオンを通った。)→リストラ(ガラテヤ地方のリカオニア州)→デルベ(ガラテヤ地方のリカオニア州)→リストラ→イコニオン→アンティオキア→ペルゲ→アタリア(パンフィリア州沿岸の海港)→アンティオキア

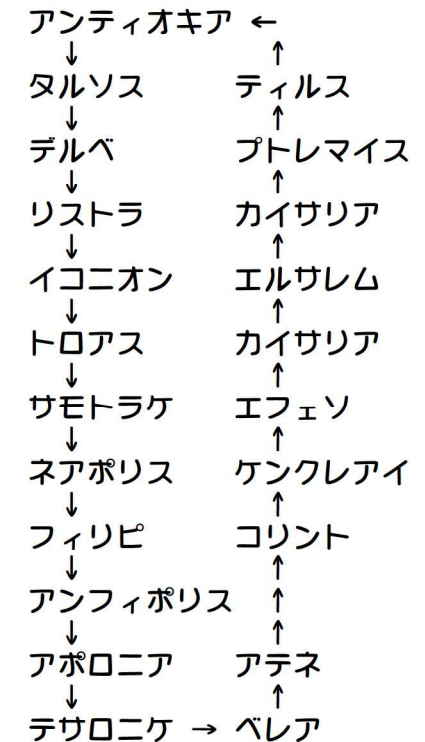
※ギリシア名:パウロ(ギリシア語圏では、ギリシア名を使用)、ユダヤ名:サウロ

✦エルサレム会議（使徒15章）：AD49年頃

パウロの異邦人に対する宣教が発端となり、誰が救われるか、どうやって救われるのかという激しい意見の対立と論争が起こった。第1回と第2回の宣教旅行の間に、アンテオケ教会代表のパウロとバルナバは、エルサレム教会で救いの方を議論する会議に参加した。結果として、異邦人も、ユダヤの伝統に従うことなく、イエスを受け入れることができるというものだった。（※1）

✦パウロの伝道（宣教）旅行 II AD49～52(51～53)

使徒15:36～18:22 パウロとシラス(パウロと同じく、ローマの市民権を持つ)のギリシアへの伝道

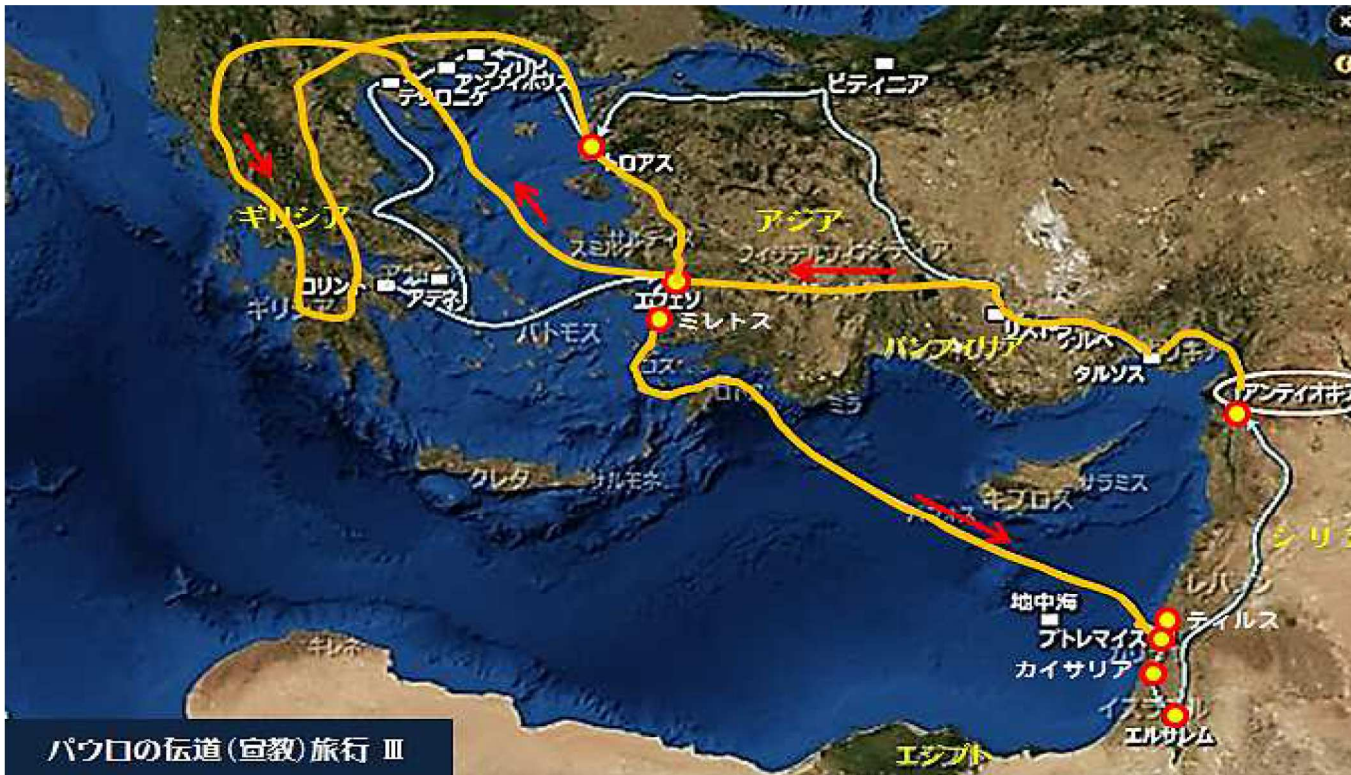


アンティオキア→タルソス→デルベ→リストラ（パウロの協力者で弟子でもあるテモテを同行させる）→・・・→トロアス→フィリピ（→アンフィリポス／アポロニア）→テサロニケ（マケドニア州の首都、ユダヤ人移住者を含めて20万人近い人口があった）→ベレア（ユダヤ人は学びと礼拝のために、定期的ここに集まった。テサロニケの南西約80kmにある）→アテネ（ギリシアの中心地、地中海世界の有名な文化都市）→コリント（エーゲ海とアドリア海を分かち土地にあり、多くの文化が交流する都市で、劇場、市場、神殿があり、多くの神秘宗教が栄えていた）→・・・→エフェソ（アジア州の首都で、貿易の中心であった）→エルサレム→アンティオキア

※パウロは、最初の伝道（宣教）旅行のときできた教会を再訪するために、バルナバに参加を願ったが、マルコと呼ばれるヨハネの件で意見が激しく衝突し、分かれて行くになった。そこで神はこの状況を肯定的な状況に変えられました。こうして二つの宣教チームができ、パウロはシラスと小アジアへ、バルナバはマルコと呼ばれるヨハネと共にキプロス島へ行くことになった（使徒15：36～40）。

✠パウロの伝道（宣教）旅行Ⅲ AD53～57（53～56）

使徒18:23～21:16 アジア州の首都エフェソ等一帯への伝道



聖書の記述に従い伝道（宣教）の道程を示すと次のようになる。  
→記号●

- アンティオキア
- ↓
- エフェソ 19: 1
- ↓
- ギリシア 20: 2
- ↓
- トロアス 20: 6
- ↓
- ミレトス 20: 15  
(エフェソの南にある町)
- ↓
- ティルス 20: 3  
(プトレマイスの北にある港町)
- ↓
- プトレマイオス 21: 7
- ↓
- カイサリア 21: 8  
(プトレマイスとエルサレムの中程にある町)
- ↓
- エルサレム 21: 15

※1：エルサレム会議 AD49年頃に、エルサレムで開催された初代教会において最大会議である（使徒行伝15章）。パウロの第1次伝道（宣教）旅行によって誕生したクリスチャンたちと、ユダヤ人クリスチャンとの間の諸問題について、初めて公式な見解を与えた会議である。ユダヤ主義的クリスチャンの主張に対して、アンテオケ教会代表のパウロとバルナバが参加し、エルサレム教会で開催された。最初にパウロの伝道（宣教）報告があり、続いて問題解決のために激しい議論、論争があり、審議がされた。その結果、ユダヤの律法を遵守することから異邦人は解放され、人は「信仰によってのみ救われる」ことが確認された。併せて、異邦人に対して、偶像に供えたものと、血と、絞め殺された動物の肉、そして不品行を避けるように、という事項が確認された。しかし、実際には、これで問題が解決されたわけではなく、AD70年のエルサレム陥落まで、ユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンとの対立は継続した。エルサレム陥落後はユダヤ人クリスチャンは衰退していった。  
【参考】アンティオキア教会：異邦人キリスト者が中心、エルサレム教会：ユダヤ人キリスト者が中心

④地図の経路・航路（矢印）は都市間の移動のイメージを示し、必ずしもパウロ達がたどった道を正確に示すものではありません。